

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

|        |  |
|--------|--|
| 学校名    | 大阪府立夕陽丘高等学校  |
| 取り組む課題 | 生徒の学力の充実   |
| 評価指標   | <p>学校独自のアンケートにおいて以下の項目を検証する</p> <p>【課題設定力】自ら疑問を設定し深く調査し考えをまとめることができる</p> <p>【学 ぶ 力】授業における ICT 機器利活用が知識や考えを深めることにつながった</p> <p>【主 体 性】特定の教科で学習し、e-portfolio に蓄積した情報が他教科における学習の理解を深めるのに役立った</p> |
| 計画名    | <p>主体的に学び続ける姿勢の育成をめざした BYOD (Bring Your Own Device) による ICT 利活用の実践</p> <p>～学校情報ネットワークオープンネットの安全活用の推進～</p>  |

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

|                  |   |
|------------------|---|
| 学校経営計画の<br>中期的目標 | <p>1. 「進路希望実現」に関する中期的目標</p> <p>(1) 次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメントを確立し、「確かな学力」を育成する。</p> <p>① 総合的な探究の時間「夕陽学」を軸に、各教科・行事等の教育活動をつなぎ、学校における「協働」を実現する。</p> <p>② 指導教諭を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、その評価方法について研究する。</p> <p>(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。</p> <p>④ 各学年の生徒に応じた進路の取組を行う：スケジュールの早期提供、模試の事前・事後指導、学びの履歴書の作成</p>  |
| 事業目標             | <p>社会が大きく変化する現代で、主体的に考え行動し未来を形作り、社会を牽引する役割を担える人材育成をめざす。</p> <p><b>【自ら疑問・課題を設定し、学習内容を蓄積しながら、主体的に学ぶ力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりが各教科・行事等における学びを適宜蓄積できるインターネット環境を提供する。</li> <li>・学習内容の蓄積を通じて教科間の結びつきの気づきを促し、学習内容の深化につなげる。</li> </ul> <p><b>【多面的な評価の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教諭を中心に、ルーブリックによるパフォーマンス評価、ポートフォリオによるプロセス評価を実施し、考査に依存することなく、多面的に生徒の活動を評価する方法を実践研究する。</li> </ul> <p><b>【学習習慣に対するメタ認知力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が学習状況を自ら把握し、客観的に自己をふりかえり、弱点を克服し、自己実現に向け取り組むための環境づくりを進める。</li> </ul> |
| 整備した<br>設備・物品    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒所有の端末をネットワークに参加させることによって、e-portfolio の活用を推進し、確かな学力の育成につなげるため、各教室にアクセスポイントの電源をコントロールするためのスイッチを設置する。</li> <li>・生徒一人ひとりが授業において情報収集し、知識を深め、情報を整理し、他者と共有できる授業づくりに取り組む。</li> <li>・HR 教室に iPad と AppleTV を配置し、授業、課外活動で生徒が考えを表現できる場を設ける。</li> </ul>   |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <b>取組みの<br/>主担・実施者</b>   | 主担： 指導教諭、IT 推進委員長<br>実施者： IT 推進委員会（教頭、首席、各学年・教科及び各分掌の代表者）   |
| <b>本年度の<br/>取組内容</b>     | 【6～2月】Google Classroom を活用し、主体的・対話的で深い学びの実践を情報科中心に実践研究した。<br>【1月】音楽科の指導教諭による公開授業では、生徒一人ひとりの端末を活用した取組みを実施し、研究協議では次期学習指導要領にどのように組織的に対応していくのかを検討した。  |
| <b>成果の検証方法<br/>と評価指標</b> | 学校独自のアンケートを実施し、以下の項目について肯定的な意見を 75%以上にする。<br>【課題設定力】自ら疑問を設定し深く調査し考えをまとめることができる<br>【学 ぶ 力】Classroom は、探究活動における理解を深めるのに役に立った<br>【主 体 性】Classroom や Classi における特定教科の取組み、ふりかえりが他教科における学習の理解を深めるのに役立った。  |
| <b>自己評価</b>              | 12月に以下の項目に関するアンケートを1年生318人に実施し以下のような結果が出た。<br>【課題設定力】自ら疑問を設定し深く調査し考えをまとめることができる<br>肯定：93.3% 否定：6.7%…………… (◎)<br>【学 ぶ 力】Classroom は、探究活動における理解を深めるのに役立った<br>肯定：85.8% 否定：14.2%…………… (◎)<br>【主 体 性】Classroom や Classi における特定教科の取組み、ふりかえりが他教科における学習の理解を深めるのに役立った。<br>肯定：59.9% 否定：40.1%…………… (△) |
| <b>次年度に向けて</b>           | 1 他校でも無理なく気軽に運用できる状態にし、府下全体に BYOD の取組みを広げることをめざす。<br>2 実際に BYOD を実施することで、どのように生徒の学びが変容したのか、教員の授業のあり方が変容したのかを調査していくことに今後取り組む。<br>3 Classroom、Web フォーム等を活用した形成的評価を推進し、生徒の理解度を踏まえた継続的な授業改善をめざす。  |